

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会規定に準じて行うが、参加者の年齢段階を考慮し、競技を進行する。

2. 練習場及び練習について

- (1) **練習での事故を避けるため、朝のリレー種目の練習場所を次の通りに分けるので、割り当てられた場所で練習を行うこと。**

東備・西部・高梁・新見・津山地区	補助競技場（第2・第3コーナーのみ）
岡山・玉野・倉敷地区	本競技場（第2・第3コーナーのみ）

※個人種目の練習はすべて補助陸上競技場で行うこと。

- (2) 本競技場の練習時間は**午前8時～午前8時45分まで**とする。補助競技場（武道館南側）の使用時間は、午前8時から最終競技招集完了時刻までとする。ただし補助競技場へ出入りできる者は競技者及び引率者・保護者とする。補助競技場へは引率者同伴で行くこと。練習は競技役員の指示を守り、安全に十分注意して練習すること。練習以外のために使用することは認めない。
- (3) **本競技場をアップや練習で使用していたチームについては、午前8時45分以降のアップや練習については、補助競技場を使用すること。**

※練習時のレーン使用区分は、原則として次のとおりとする。

◇1、2レーンは1000m・800m走

◇ホームストレート3～6レーンは短距離走 ◇バックストレート3～8レーンはリレー

◇ホームストレート7レーンは80mH走、8レーンは60mH走（必要に応じてレーンを増やす）

◇フィールド内（芝生）はボール投げ（ウォームアップ場係の指示に従うこと）、跳躍ピットは走り幅跳び・走り高跳び（準備が出来次第、競技役員の指示に従って行うこと）

※ 用器具は、ソフトボール（グラブ）、バトン以外は持ち込まない。

※ リレーに使用するスタートマークは使用者または引率者が責任をもって取ること。

3. 競技者の招集方法について

- (1) 競技に出場するためには、学校受付をし、決められた時間内に招集場所での係員による受付（コール）が必要。**招集場所は全種目第1ゲート内**である。**2種目出場していて選手が招集場所に行けない場合は、1種目目の招集時に2種目目招集を合わせて行うこと。**招集所へ移動する際、そのまま競技に参加できるよう（スパイクは手に持ち、上着は着用してよい）準備をしておく。
- (2) 4×100m リレーに出場するチームは、エントランスの諸届け受付にあるリレーオーダー用紙に記入し、8時20分までに諸届け受付に提出すること。
- (3) **招集は、競技開始40分前から始め、20分前に完了**とし、競技役員の最終点呼を受ける。なお、トイレに行くなどやむをえない場合のみ、競技役員に申し出て許可を得ること。同時にアスリートビブス・腰ナンバー標識、シューズ、衣類など、競技場内への持ち込み物品などの確認を受ける。

4. アスリートビブス（ナンバーカード）・腰ナンバー標識（腰ゼッケン）について

- (1) アスリートビブスは、ユニフォームの胸に固定する。
- (2)トラック競技に出場する競技者は、写真判定用に、競技役員より受け取った腰ナンバー標識を所定の位置（右側の腰辺り）に付けること。

5. 競技について

- (1) その競技に出場している競技者以外は、競技場内（トラック・フィールド）に立ち入ることはできない。
- (2) 決勝の組み合わせ、及びレーン順、試技順は競技場用コンピュータにより公正に番組編成する。

トラック競技について

- (1) 1000m走・60mH走・80mH走・4×100mリレーの出発姿勢は**クラウチングスタート**とする。スタートはイングリッシュコマンドで行う。2回目以降に不正スタートをした競技者を失格とする。その場合、走ることはできるが、参考記録とする。（順位に反映されない）
- (2) 1000m走・60mH走・80mH走・4×100mリレーの各走者は、自他の安全のため、審判の指示があるまで自分の割り当てられたレーン内にとどまる。
- (3) 4×100mリレーのバトンパスは、30mのテイクオーバーゾーン内で行う。
- (4) バトンは大会が用意したものを使用する。スタートマークを使用したいチームは、主催者が準備した黄テープを招集所で受け取る。スタートマークは各自1箇所のみを使用とする。ただし、使用したチームはレース後、責任をもってテープを取るようにする。

- (5) スタートブロックは、100m走・60mH走・80mH走・4×100m リレーで使用してもよい。すぐ設置できるよう練習しておくこと。
- (6) 100m走・60mH走・80mH走は、タイムレースとし、決勝進出できる競技者は8名とする。ただし、8番目の記録と同記録(0.001秒での判定)の者が複数で9名になる場合は、9レーンを使用してレースを行う。また、10名以上の場合は、8番目の記録と同記録の者により抽選を行い、決勝進出者を決定する。
- (7) 4・5年の4×100m リレー・1000m走・800m走・女子60mH走・男女80mH走は、予選を行わず、タイムレース決勝とする。
- (8) リレーのみエントリーの競技者で、補欠や不測の事態などでリレーに出場しなかった競技者(希望者)を対象に、100m走友好レースを行う。友好レースについては、100m走種目の順位に含めない。

フィールド競技について

- (1) 走り幅跳びとソフトボール投げは、まず3回の試技を行い、記録の上位8名の選手は、さらに3回の試技を行うことができる。8位の競技者が複数出た場合は、2番目以降の記録で順位決定を行う。順位決定については、合計6回の試技全ての記録により決定する。
- (2) 走り高跳びは、以下のルールで競技を行う。
 - ①走り高跳びは、はさみ跳びとし、マットへの着地は足裏からで、背中、腰からの着地は無効試技とする。
 - ②マーカが必要競技者は主催者が用意したものを使用する。なおマーカは各ピットで競技役員が配付し、助走路に2個まで置くことができる。
 - ③バーの上げ方は、5cmとする。
 - 男子…(120cm・・・練習) 120、125、130、135、140cm……
 - 女子…(115cm・・・練習) 115、120、125、130、135cm……
 但し、競技者が一人になった場合には、本人の希望の高さで試技を続けることができる。また、1位が複数の時には、2cmの幅の増減により順位を決定する。

6. 表彰について

各種目1位～8位までに賞状を渡す。(1位～3位については表彰式を行う。4位～8位については代表者がエントランスホールに取りに来ること。)

7. 競技用靴について

- (1) 競技用靴は**運動靴または陸上競技用スパイクシューズ**(ピンの数は11本以内の平行ピン、長さ7mm以下)とし、ニードルピン及び素足は認めない。1000m走・800m走は、スパイクシューズを認めない。
- (2) スパイクシューズの着用は、競技場内のトラック・フィールド部分のみとし、スタンドや通路、正面玄関前では絶対着用しないこと。
- (3) 競技で使用するシューズの底の厚さの規定は設けませんが、**トラック種目で県学童記録・大会記録が出た場合、以下のシューズでなければ記録として認められないので注意すること。県学童記録・大会記録が出た場合、シューズの計測を行う場合がある。**

	シューズの底の厚さ
全種目	20mm以内

※ 日本陸連の競技規則の変更に伴い、11月1日より800m走・1000m走における靴底の最大の厚さが20mmに変更されています。

8. その他

- (1) 競技結果は、アナウンス・電光掲示板及び岡山陸上競技協会ホームページで随時紹介する。(プログラム最終ページのQRコードから閲覧可能)
- (2) 本競技会では、競技者は全員傷害保険に加入する。競技中に発生した傷病・疾病については医務室(エントランスホールから入り、ダッグアウト下の通路をゴール方向に行ったところ)で手当てをするが、傷害保険の加入範囲及び現場での応急処置以外の責任を主催者は一切負わない。また、応急処置後の治療費は個人負担とする。なお、本競技会に関わる全ての人の感染に対する責任を主催者は一切負わない。
- (3) 貴重品の管理は各自で行う。紛失・盗難にあっても主催者はその責任は一切負わない。
- (4) 競技場は禁煙である。また、その他の競技場使用マナーを遵守すること。(よごさない・傷つけない・迷惑をかける・けがをしない・させない。)
- (5) プログラム記載事項に訂正がある場合は、出場競技の招集開始前までに責任者が「プログラム訂正届」をエントランスの諸届け受付に提出すること。
- (6) スタンド最前列での通路に立っての応援及びホームスタンドでの声をそろえての応援は禁止とする。
- (7) **本大会では所属が学校になるため、服装は所属団体名と同様のものとする(体操服など)。クラブチーム等のユニフォームを着用する場合は、アスリートビブスなどでクラブチーム名等が見えないようにすること。また、リレー種目では同系統のものに服装をそろえること。**